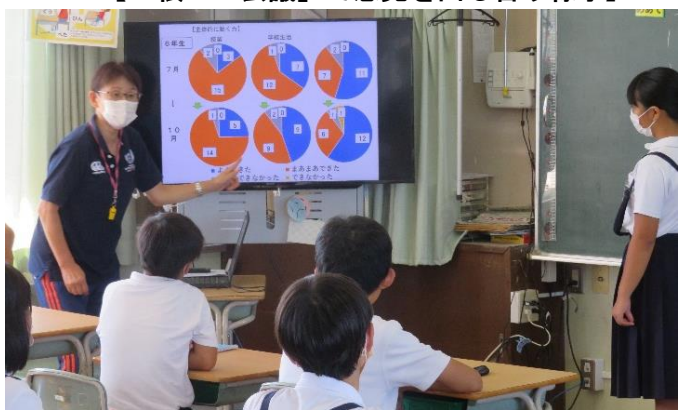


学級担任による教育活動の定期的な評価改善により、教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの推進 ～玉名市立滑石小学校～

Microsoft Formsを利用し、児童の自己評価を1年間に4回（前期前半、前期後半、後期前半、後期後半）行い、その評価結果を生かし教育計画を見直すことで、教育活動の質の向上を図っている。



【「根っこ会議」で意見を出し合う様子】



【「根っこタイム（児童集会）」で意見を出し合う様子】

根っこタイム（児童集会）において、アンケート結果から分かる学校全体及び各学級の意識の変容を円グラフで提示し、学級で取り組むべきことを考えさせていく中で、合意形成や児童一人一人が頑張ることの意思決定に役立て、教育活動の質の向上につなげました。

「主体的に動く力」「人と関わる力」「やり抜く力」の3つの資質・能力を育成するために、1年間に4回のPDCAサイクルを位置付け、評価時間（根っこ会議）を定期的に設定します。

Microsoft Formsを利用した評価アンケート集計や単元配列表を活用した教育計画づくりでは、学級担任が目の前の児童の実態を把握して改善につなげています。その際、5W1Hを意識して計画することで、実現の可能性を高め、教育活動の質の向上を目指した取組となっています。

○評価アンケートについて

「主体的に動く力」「人と関わる力」「やり抜く力」の3つの資質・能力のアンケート項目に、それぞれ「授業」「学校生活」「行事等」の3項目ずつを設定しました。また、3つの資質・能力について、どのような気持ちで頑張ったかの記述も取り入れました。

○「主体的に動く力」の項目例

- ・授業で、課題をとらえ、自分なりの考えをもち、取り組むことができましたか。
- ・学校生活で、善悪の判断を付け、正しいと思うことを考えて動くことができましたか。
- ・行事や学活、委員会活動で、目標をもち、自分ができることを明確にし、行動することができましたか。

6.【人と関わる力】

授業で、互いの思いや考えを出し合い、伝え合い、協働的に学ぶことができましたか。

- ☐ よくできた
- ☐ まあまあできた
- ☐ あまりできなかった
- ☐ できなかった

【Formsを利用した評価アンケート画面の一部】

小中連携を基盤とした教育活動（9年間の連続した学びの構築、インクルーシブ教育システムの推進、小中共通の学校教育目標設定等）の展開 ～山鹿市立鹿北小学校・鹿北中学校～

鹿北小・鹿北中学校は隣接しており、小中連携を基盤とした教育活動が展開されている。鹿北で学ぶすべての子どもが自立して生きていくことができるための教育が実践されている。

小・中学校が連携する理由

（1）小学校高学年段階における子供の身体的発達の早期化が指摘されています。

- 児童生徒の身長や体重の伸びが最も大きい時期は、2年程度早まっています。
- 女子の平均初潮年齢について、昭和初期と比べて2年程度早まり、小学校5～6年生での既婚率が大きく高まるなど、**思春期の到来時期が早まっています。**

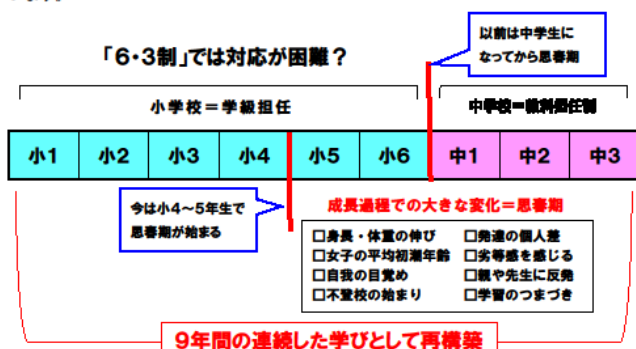
（2）自我の目覚め

- 「自分が周りの人から認められていると思いますか」という自己肯定感や自尊心に関わる質問に対し、小学校高学年から急に否定的な回答が多くなります。
- 不登校や長期欠席についても、実際に休み始めた学年を見ると小学校段階からであるケースも相当数あるなど、いわゆる「中1ギャップ」と呼ばれる現象の芽の多くは既に小学校4～6年生から生じています。

（3）学習指導

- 「学校の楽しさ」「教科や活動の時間の好き嫌い」について、小学校4年生から5年生に上がると肯定的回答をする児童の割合が下がる傾向があります。
- 経験的な理解で対応できる学習内容から理論的・抽象的な理解が必要な学習内容への橋渡しが必ずしも円滑に行われておらず、学習上のつまづきが顕在化し、その後の中学校段階での学習に大きな支障を来しているといった指摘もあります。

このような状況を踏まえ、おおむね小学校4～5年生頃に児童生徒にとっての発達上の段差が存在しているのではないかと指摘がなされ、多様な教職員が指導に当たることによる興味・関心や個性伸長への対応、教科指導における専門性の強化といった従来であれば中学校段階の特質とされてきたものが、一定程度小学校段階に導入されるようになっていきます。

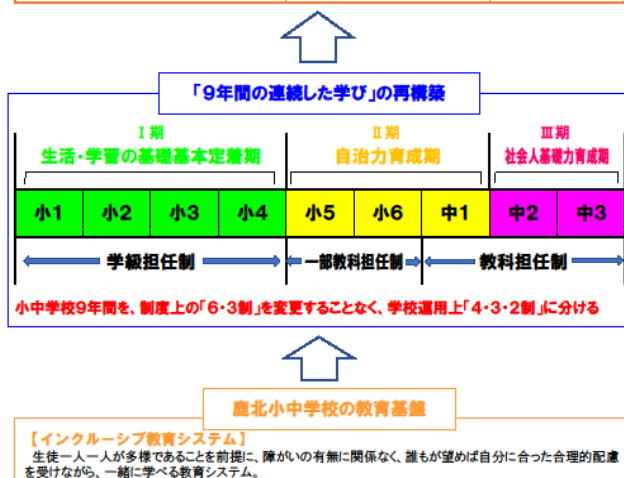


鹿北小・中学校では、今までの「6・3制」とらわれることなく、「9年間の連続した学び」を、「4・3・2制」に再構築し、教育活動を実践しています。

9年間の連続した学び

鹿北で学ぶすべての子どもが、自立して生きていくことができるための教育

I 期(小1～小4)	II 期(小5～中1)	III 期(中2・中3)
【学び力】 ・基本的な生活習慣の確立 ・基本的な学習習慣の確立 【つながり力】 ・挨拶、返事、会話などコミュニケーション力 ・話し合い活動の基礎基本スキル習得 ・自分と友だちを大切にすること。 【やり遂げ力】 ・あきらめずに最後までやり遂げる。 ・学級の係活動に積極的に取り組む ・集団の中で自分の責任や役割を果たす。 【輝き力】 ・自分のことを好きになる。 ・いろいろなことに積極的に取り組む。 【鍛え力】 ・運動に親しむ。 ・運動する習慣を身につける。	【学び力】 ・生活設計力向上 ・学習方法の模索・確立 【つながり力】 ・思いや考えの交流 絆を深める ・話し合いにより課題解決 ・自他の人権尊重 【やり遂げ力】 ・学校行事等の企画・運営・協同 ・児童会活動の推進 ・リーダーとして自覚を持った行動 【輝き力】 ・集団の中で自分を生かす。 ・自分の長所を自覚し生かす。 【鍛え力】 ・積極的な体力作り、自己管理能力 ・目標を持って運動にチャレンジ	【学び力】 ・進路を見つめ選択 ・学びを生かす力 【つながり力】 ・自分を語る ・自ら課題発見・解決 ・人権文化の開花 【やり遂げ力】 ・学校内外の行事等企画・協同 ・生徒会活動推進 ・リーダーとしての資質向上 【輝き力】 ・学校・地域で自分を生かす。 ・一人一人の個性の開花 【鍛え力】 ・本物の達成感・充実感 ・きつけど楽しい体験



小中学校9年間で目指す子供の姿、重点的に育成を目指す資質・能力を設定し、その実現に向けた具体的な取組を好循環につなげるPDCAサイクルが実施されています。

これまでの教育にとらわれず、新たな取組を教職員が連携・協働し、五者で共有しています。その代表的なものとして、教育課程を「6・3制」の考えを大切にしながらも、運営上にて「4・3・2制」に再構築し、I期からIII期としています。特にII期（小5・6、中1）では、中1ギャップの解消のため一部教科担任制を導入して、教育活動を展開しています。

第2章 【教育活動の定期的な振り返りと更なる充実】実践例

学校教育目標の実現に向けた振り返りと、より具体的な改善・計画へつなげる 取組

～水上村立岩野小学校～

各学年の年間指導計画一覧表を使って、年度初めや各学期末、行事等の実施後に職員間で気付き等を出し合い、課題の「見える化」を図りながら、より具体的な改善と課題解決の取組を行っている。



【「各学年の年間指導計画一覧表」と、気付きを出し合う職員の様子】

年度当初にグランドデザインを基に学校教育目標等を全職員で共通理解した後、校内研修で前年度の反省を踏まえながら、年間指導計画一覧表を作成します。

各学期末や学校行事等を行った後の校内研修や放課後のミニ研修の場で、単元構成や指導内容に関する気付き、次の単元づくりや指導過程につながるアイデア等を職員間で出し合いました。そして、そのアイデアを一覧表に書き込み意識化を図ることで、その後の改善につなげています。

また、一覧表は各教室に常掲し、担任等が授業後の気付き等をその場で記入するとともに、児童、保護者及び地域の方々と共有できるようにしています。